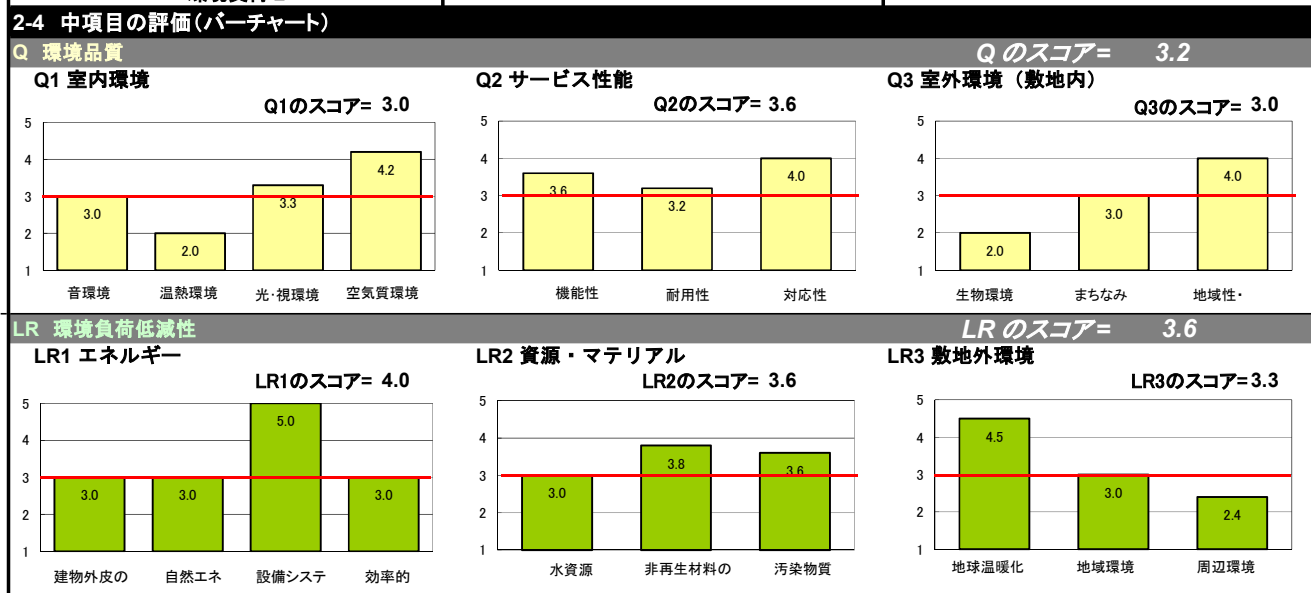
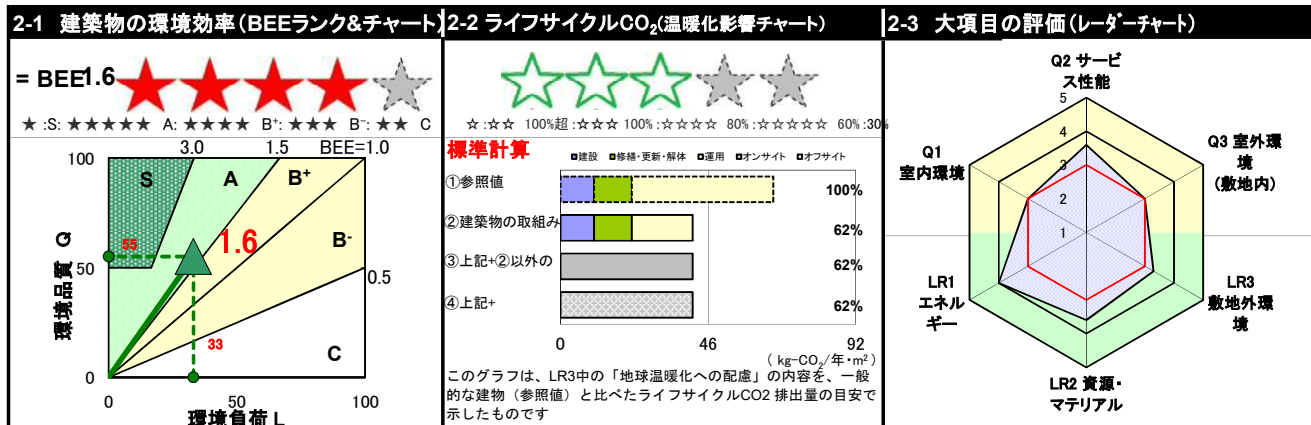


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海国立大学機構(東山)Tokai Open Innovation Complex 新館その他工事	階数	地上7F
建設地	名古屋市千種区仁座町1 他55筆	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	295 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年1月11日
敷地面積	380,082 m ²	作成者	
建築面積	503 m ²	確認日	2023年1月18日
延床面積	3,066 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
既設の環境を保存しながら、負荷抑制も考慮し持続性のある建物としました。 コミッションングプロセスを適用し、内・外装共に既設の建物と調和する計画としています。建物利用用途的にも人が多く集う建物であることから、機能を担保しつつも空間同士のつながりを綿密に計画し、人と人との対話を誘発するような空間を設け、内部空間と外部空間を連続的に計画することで、既設の環境になじみ、親しまれるような建物としました。		
Q1 室内環境 開放的な開口部を設け、利用者の快適性を向上させつつも、掘の深い庇やバルコニーを設置し昼光を制御し、西日対策・視線抑制としてスクリーンを多角的なシミュレーションにより最適な角度・ピッチで配置し室内環境の向上に配慮しました。 仕上材料には化学汚染物質の含まれないものを使用し、且つ全館禁煙として、室内空気の清浄化を行うようにしました。	Q2 サービス性能 コンセプトに基づいたオープンスペース等の空間づくりを行い、その内装材は、防汚性のあり清潔しやすい材料を選定しました。 またタイプの衛生器具の使用や、信頼性のある電気設備選定テーブルを用いる等を配慮を行いました。 実験系の機能もあることから、中とりのある階とし、設備の対応・更新性に配慮した計画としました。	Q3 室外環境(敷地内) 外観バースを作成し、コミッションングプロセスを経て、既設の環境とバランスよく調和するような計画としています。 またメインストリートに面してビロティ空間や歩行者空間のベンチ等のアメニティを計画し、中間領域を形成しながら、地域貢献にも配慮した計画としています。
LR1 エネルギー エネルギー消費量の計測・管理体制が整備されており、建物の建設の企画意図を基に、定期的な設備性能検証及びコミッションング体制が整備されています。	LR2 資源・マテリアル 節水器具などの使用による水資源の確保を行います。 躯体以外にグリーン購入品等のリサイクル材の仕上材を使用し、解体時においても躯体と間仕切材などが分離できる工法としました。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量をなるべく抑えるよう配慮しました。 利用者の要望から適切な量の駐車場を計画し、交通量負荷抑制に配慮しました。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東海国立大学機構(東山) Tokai Open Innovation Complex 新営その他工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。